

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成18年度病害虫発生予察情報について

このことについて、発生予察注意報第1号（ナシ黒星病）を発表したので送付します。

病害虫発生予察 注意報第1号

1 農作物名 ナシ

2 病害虫名 ナシ黒星病

3 予報内容

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 多

4 注意報発令の根拠

(1) 5月中旬の巡回調査では、葉での発生ほ場率は100%（平年50%）、発病葉率は10.2%（平年2.0%）、果実での発生ほ場率は90%（平年10%）、発病果率は4.5%（平年0.1%）と高く、果梗部及び果実では伝染源となるスス状の分生胞子が多く認められた（果実の平年値は過去5年平均）。

(2) 前年9月の葉での発生ほ場率は100%（平年50%）、発病葉率12.4%（平年9.9%）と高く、本年4～5月に芽の鱗片や芽基部に病斑が確認され、越冬菌密度が高かったと推察される。

(3) 開花初期～落花期の降雨と発病に好適な気温15～20の期間が多かったため、発芽期が平年より早くりん片脱落期の防除が遅れた園地では多発したと考えられる。

(4) 向こう1ヶ月の天候は、平年に比べて曇りや雨の日が多いと予報されている。

5 防除上注意すべき事項

(1) 効果の高いE B I剤（DMI剤）で袋掛け前までに重点防除する。ただし、耐性菌の発生防止のため連用を避け、なるべく年間3～4回以内の使用にとどめる。

(2) 発病葉や発病果は伝染源となるのでせん除し、園外に持ち出して処分する。

(3) 本病に感受性の高い「幸水」では、満開75～90日後（7月上旬）まで果実に発生するので、今後の降雨と感染に注意し、輪紋病との同時防除を行う。

（参考資料）

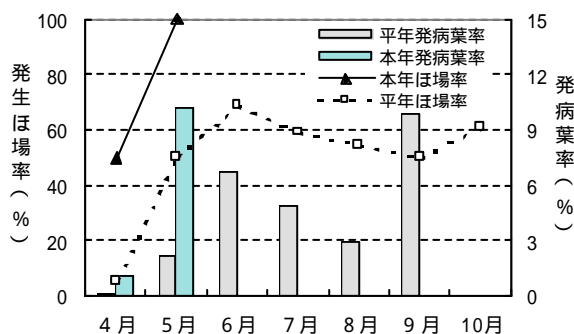


図1 ナシ黒星病の葉での発生状況（2006年）



図2 果実及び葉柄での発生状況